

第2回浜松市立中学校における制服のあり方検討委員会 会議録（概要）

1 委員長あいさつ

（奥家委員長）

- ・ 第1回の会議では、委員の皆様それぞれから制服に対する率直なご意見、また、今制服が抱えている課題などをざっくばらんに出していただいた。
- ・ 9月から10月にかけて児童生徒や保護者を対象としたアンケート調査を実施し、結果の取りまとめができたので、まずはその報告をさせていただく。その後に、その結果や第1回の議論、検討を踏まえて、さらに意見交換を深めていきたい。
- ・ それぞれの立場から、忌憚のないご意見を今回もたくさん出していただいて、より深い検討が進められるとよいと思っている。

2 報告 制服に関するアンケート調査等の結果について

※資料1、資料2に基づき事務局から説明、その後質疑応答

（ミライ制服すすめ団 夏目団長）

- ・ 児童のアンケート回答のなかに「にほんご」とだけ書かれた回答があった。日本語が読めなかったのではないかと心配している。第1回の検討委員会のために、浜松国際交流協会さんから翻訳ができるということでお申し出があったかと思うが、翻訳は行われたのか。

（事務局）

- ・ 第1回の際に、保護者は日本語だけではなかなか回答が難しいという話があったので、保護者については多言語版を用意して回答をいただくようにした。
- ・ 児童生徒については、学校の方で少しフォローしながら回答することにしたため、多言語版を用意しない形とした。

（浜松トランスジェンダー研究会 鈴木代表）

- ・ アンケートの項目の中に『校内着』というものがあって、初めて聞いたというか、どういうものがちょっとわからなかった。『体操着』と『校内着』が別にあるのか。

（浜北北部中学校 影山校長）

- ・ 体操服は体育をやる時の服装（半袖と短パン）で、校内着は上下ジャージのことを指す。季節に応じて、体育の際にジャージを着てもよいということになっている。

（浜松男女共同参画推進協会 道喜理事長）

- ・ アンケートの自由記述で、バッグに大きく学校の名前が書いてあることがつらいという意見が散見されたが、中学校のバッグには学校名が大きく書いてあるものなのか。

(浜北北部中学校 影山校長)

- ・ そういったところもある。ローマ字で学校名が書いてあったり、ワンポイントだったり、学校によって様々である。

(浜松トランスジェンダー研究会 鈴木代表)

- ・ 日本語以外での回答はあったのか。

(事務局)

- ・ 多言語版での回答は、ポルトガル語が 32 人、スペイン語が 8 人、インドネシア語が 3 人、フィリピン語が 25 人、英語が 5 人、中国語が 3 人、ベトナム語が 4 人であった。
- ・ これらは日本語に直した形で保護者の回答に含めており、多言語分ということで取り出して集計はしていない。

3 協議 制服に関するアンケート調査等の結果を踏まえた意見交換

(奥家委員長)

- ・ 本当に多くの児童生徒の皆さん、保護者の皆さんにご協力をいただいた。本アンケートについては、サンプルというよりはむしろストレートな意見、総意のようなものが結果に表れているのではないかと考えている。
- ・ 皆さんがこの調査結果の報告をお聞きになってどのように感じられたか、結果を踏まえて、今後この委員会においてどんな議論をしていくべきかについて、ご意見をいただければと思う。

(静岡県立大学 犬塚教授)

- ・ 回答者が大変多い、回収率が高いということで、率直な生の声が聞けた調査ではないかと全体的には思う。
- ・ 制服のよい点というところでは、「毎日着る服に悩まなくていい」という回答が、特に保護者の方は圧倒的に多く、やはり制服ないし毎週着替えを考えなくてすむような統制された服があるということをおある意味で肯定的に受け止めている。中学生も 4 割ぐらい、「中学生らしく見える」という回答が 4 割ぐらいあり、何らかの形で制服について中学生も保護者も別に否定的とは捉えられないのではないかと考えた。
- ・ 確かに「登下校含めて一日中校内着・体操着がよい」という答えは、中学生でも保護者でもその数だけ見ると一番多いが、特に保護者の半分以上は制服があることを肯定的に受け止めていると見るべきではないかと思う。さらに校内着や体操着にしても、完全な自由服ではない、これも一種の制服なわけで、そういう意味で言うと相対的には何らかの形で統一された制服的なものが望ましいという傾向が見えるのではないか。
- ・ 一方で、制服の悪い点で見ると、中学生の答えで一番多いのは「動きにくい」ということ、それから 2 番目と 3 番目が「洗濯・手入れがしにくい」「暑さ寒さに対応していない」、どちらかというとな非常に実用的な理由であった。保護者の場合も「洗濯・手入れがしにくい」「暑さ寒さに対応していない」という回答がかなり多く、制服の素材やデザイン自体の問題があるという

ことが見えたような気がする。

- ・中学生はそれほど高くないが、圧倒的に保護者に多いのは「値段が高い」というところで、やはり実用的な意味で、素材やデザインのあり方を含めての検討、さらに言うと価格についての見直しも必要ではないか。価格自体を下げるのでなければ、リユースやレンタルなど多様な形で経済的なコストを少し下げることが必要ではないか。
- ・制服の必要性については、先ほど申し上げたように、保護者の場合は圧倒的に「あった方がいい」、「どちらかといえばあった方がいい」が多く、中学生自体は半々ぐらいだが、これは先ほど言った機能面や実用面で制服が改善されれば、もう少し肯定的な数字が上がってくる気がする。制服を前提とした上で、もっと要望に応じた形に機能面やデザイン面、価格等を見直していくという方向が、基本的にはよいのではないかと思う。
- ・リユース、再利用のニーズということに関しても、もしあればそれは利用したいという方が65%ぐらいを占めるというところが特徴的な傾向だと思った。
- ・中学校対象のアンケートで、登校後に体操服・校内着に着替える理由は何かというところ、圧倒的にその方が動きやすいし、活動しやすいとあって、これは制服の悪い点についての設問で、現行の制服は動きにくいという回答と対応しているのだと思う。
- ・非常に機能的な素材で動きやすく、しかも制服としてのデザインも有している、そういう服が1着あれば、校内着と制服の区別がなくなり、校内着がいらないといった話も出てくる可能性がある。そうなった時に、今度は具体的な課題として業者との関わりが出てくるが、校内着（上下ジャージ）は体操服としての機能も一部兼ねていて、冬場の体育の授業では必要だということになると思う。
- ・制服の素材やデザインを徹底的に改良するとなった時の、コストがどれぐらいかかってくるか。機能的な素材であるとか多様なデザインにすると、いわゆるロットの問題等が出てくるが、それをどうクリアするか。そのあたりで、今度はリユースということが本当に必要になってくるという可能性も高いのではないかと思った。

（東京都立大学 丹野教授）

- ・制服は何なのかということを考えると、やはりアイデンティティと結びついていると思う。そしてアイデンティティと結びつくから、ジェンダーアイデンティティや男性性や女性性という問題も含まれてきてしまう。
- ・これまで制服を学校単位で作ってきたというのは、それぞれの学校としてのアイデンティティを何らかの形で持たす、もしくはそれがよいことだと。それがなくなるということは、浜松市の中学生であるというアイデンティティは持つが、中学校単位の区別は多分なくなると思う。
- ・制服は、どこにアイデンティティを置く中学生になってもらいたいのかということと密接に結びついているし、そのときにどこに違いを置くのか。
- ・ジャージがよいと思ったのは、ユニセックス、男性も女性も同じ形態であって、あらゆる性別の人たちが同じものを着ている点で、ジェンダー的な意味からいって自由度が高い。大きな意味で、ここで議論されているようなことのかなりの部分は解決してしまうのではないかと思った。
- ・保護者の意見を見ていくと、冠婚葬祭などフォーマルな場所という意味合いが出てくるので、大学生が卒表式で羽織袴を借りるように、制服を一人一人が持つのではなく、そういう時にだ

け借りられるような場所を用意することができて、家庭で用意しなければいけないものはジャージに相当する共通のものというような形で考えることができるのならば、家庭の負担も減るのではないか。

- ・小学生は、制服に対してかなり期待をしている。その将来の中学生の部分を考えてしまったときに、誰の意見に基づいてこれを決めるのかというところで悩ましいと思った。現役の生徒だけで済むのであるならば、ある程度シンプルに決めることができると思うが、小学生たちの期待というところまで含めて、どこで落としどころを見つけるのかというところが課題になると思っている。

(浜松男女共同参画推進協会 道喜理事長)

- ・まず回答率がすごく高いことにびっくりした。これだけ不満や不安、心配なことなどが意見としてたくさん出ていて、よく今まで我慢していましたねというのが最初の印象である。
- ・前回も少し質問したが、制服は登下校のみ、特に登校だけで下校のときは体操服という状況であれば、親御さん、子供も含めて制服に対して不満が出るのは当たり前ではというところが率直な意見である。丹野先生の意見に近いが、体操服や校内着に替えるのであれば、登下校は私服でよいのではないか。
- ・親御さんからの自由記述の中に、制服のサブスクの意見が何件かあったが、今はそういったことに慣れていない親御さんも増えているので、何か公式な行事の時に、例えばジャケットを学校で揃えておくとか、そういった新しいシステムがあっても楽しいのではないか。
- ・不満や不安の中に、体操服を下に着込んで制服を着るという声がたくさんあり、これはなぜかと考えたときに、学校に行って着替える場所がない。また、その着替えた制服をまたバッグの中に入れるという声もたくさんあり、着替えた制服を置く場所がない。会社だったらありえない状況なので、もし今の現行の制度の中で生徒たちに着替えるということをルール化しているのであれば、それにまつわる配慮は今すぐの改良点ではないか。

(浜松国際交流協会 岡田氏)

- ・他の方たちが言ったように、自分の子供たちも小学生の頃に中学生になることをすごく楽しみにしていて、制服に対してすごく誇りを持っていたことを思い出した。
- ・保護者としては、一気に体操服やジャージ、カバンなどを買わなくてはならないので、制服は価格が高いと思う。
- ・校内で着替えるのも、やはり動きにくいから多分そのようにしていると思うが、今スーツも動きやすい素材でできているものもあるので、制服もそういう素材にできたらよいと思う。

(ミライ制服すすめ団 夏目団長)

- ・小学校4年生から中学3年生までの意見を通読したが、小学生は制服への期待に満ちていて、中学生になると不満、がっかりするという流れになっていた。
- ・アンケート結果を読んで第一に思ったことは、今年の4月に施行された『こども基本法』が遵守されているのかどうかというところである。子供の人権が守られている状況なのか。保護者からの意見で、「アンケートをやっていただいて本当に嬉しい」という声が何件かあったが、今まで子供に対しても、親に対しても、これまで意見を聞いたことがなかったということが、大

きく注目すべきことだと思っている。

- ・ 『こども基本法』では、「自分に直接関係することに意見を言えたり、社会の様々な活動に参加できること」ということが、法律として定められている。また、同じく去年の12月に改訂された生徒指導提要も、これまでの指導方針から大きく変えたはずで、今までとは全く違う指導方法になるべきところなのだが、子供たちのアンケートを見るとそうはなっていないことがわかる。不満が多かったり、強要されていたりということが散見され、国の方針とずいぶんかけ離れているのではないかという印象を持った。
- ・ 不登校の生徒の意見が少なく感じたので、こちらで取ったアンケートの内容や、今回のアンケートについての論点を後でお話しする。また、アンケートで少数派の声が集まってきたことは、すごく素晴らしい成果だったと思う。自由記述の中に本当に個別のケースがたくさん寄せられていた。

(浜松トランスジェンダー研究会 鈴木代表)

- ・ 単純に、こんなに苦しんでいる子供たちがたくさんいるということが、はっきり出てきたということで、今回アンケートをとって良かったと思う。それと同時に、今までこの子供たちは聞いてもらう場がなかったのだろうか、どうしていたのだろうか、とても胸が痛くなった。
- ・ 中学校への調査の問5-1で、制服に関する生徒や保護者からの個別相談がどのぐらいあったかという数が出ているが、半分強ぐらいの学校で個別相談は「ない」、ということで、こんなにも学校に相談できない、相談しても仕方がないと思っているのかとびっくりした。制服のことは決まりだから意見を言っはいけないと思っているのか、そういう現状なのだと思う。また、学校に相談があった中で、制服を着たくない、ズボン・スカートを履きたくないと回答した子供たちは、今どうしているのかと心配に思う。
- ・ 制服を着ることができない子供たちへの対応で、校内着・体操着を許可されていたり、制服の選択について説明されていたりしているようだが、この子供たちがどういう思いで今いるのか、本当に納得できているのか。安心して学校に通えているのか心配。
- ・ 制服が楽しみだという話が出ていて、びっくりした。トランスジェンダーの子供たちからは、制服が楽しみだという声は一つもなく、不安だとか苦しいとか、やめてほしいとか、本当に死ぬ気で制服を着ていたり、着られなくて学校に行けなかったり、体調を壊したりしている子供たちがたくさんいる。制服を楽しみに思っている子供たちとは、全く違う景色が見えているように思う。

(浜北北部中学校 影山校長)

- ・ 中学校では、義務教育を終えて社会に出ていく子供たちが困らないように、生活のルールやマナーを教えることが大事だと思っている。大人になる準備段階というところで、その中の一つとして身だしなみを整えること、TPOに応じた服装ができることが大事だと考えている。
- ・ 社会に出れば企業の制服があったり、ユニフォームがあったりする。また、大人になればフォーマルな場面が多くなり、小学生と違って中学生はそういう場面に対応しなければならない年齢になってきている。そのため、制服を着て、儀式やテスト、高校受験、学校代表で人前に入るなど、そういう場面できちんとした服装で臨むということを教えていくことが大事だと思っている。

- ・ 本校では、令和6年度から新しい制服を導入する。導入にあたって三つのことを考えており、一つめは個人で選択ができる多様性のある制服ということで、上着は1型2型、下は1型2型3型として、スカートとスラックス2種類とした。その中からどのように上下を選んでもよいとしている。二つめは、現行の制服の価格よりも抑え、経済的な負担を軽減している。スカートやネクタイはなく、ワイシャツやブラウスは白を基調とすればどのようなものを選んでもよいとしている。三つめは、衛生面を考え、家庭で洗濯可能な素材、動きやすいストレッチが効いているものとしている。
- ・ 先日の保護者説明会では、新しい制服を買ってもよいし、従来のもを着てもよいということで、どちらにするかは家庭の判断でということの説明をした。また、衣替えの日を設定せず、自分で選択、判断をすることとしている。それが考える力だと思っている。
- ・ 今年はPTAが制服やジャージを含めてリユースをやってくださり、体育祭や新入生説明会で販売をした。これはうちの学校だけではなく、おそらく他の学校でもやられているところもあると思う。着替えについていろんなご意見があったが、体育がない日は制服のまま過ごすようにするなど、どのようにしていくか考えていきたい。アンケートでのいろいろな意見を大事にしていきたいと思っている。

(大瀬小学校 伊藤校長)

- ・ 制服に関するアンケート調査の中で、小学生に対して「中学校の制服についてどう思いますか」という質問があり、報告にあったとおり、小学校の制服の有無に関わらず、「あったほうがいい」「どちらかといえばあったほうがいい」という回答が多く、保護者の方もそのような回答だったが、このように改めて制服について聞かれるということはこれまでなかったし、当たり前というような印象があったように肌感として感じる。
- ・ 6年生になると、間近になるのでとても興味、関心があるが、4年生はお姉さんお兄さんがいる子、いなくて普段自由服で過ごしている子、小学校の制服で過ごしている子とで、もしかしたら少しいメージが違いかもしれない。家庭科の授業が5年生から始まるため、TPOというところがまだ4年生だとなかなかピンとこないというのが実態としてある。そのため、冠婚葬祭などの時には、何かしら保護者の方が考えていると思う。
- ・ 先ほど鈴木さんから、もしかしたらとても苦しんでいる子がいるのではないかというお話もあったが、本校の大体の児童は、やはり憧れ、お兄さんお姉さんになれることへの期待、制服にステータスを感じるといった印象を受ける。
- ・ 来年度から中郡中学校が制服をリニューアルするということで、新しい制服が届いた。ちょうど学校行事に合わせて、6年生の保護者も含めて見られる状況を中学校が配慮してくださったのだが、性別の区別もなく、ユニセックスでどちらを選んでもよいというようなことも書かれていて、生地を触ることもできたので、憧れやイメージが膨らんでいる様子、嬉しそうな様子が見受けられた。
- ・ 中郡中は、これまで詰襟とセーラー服だったものが、モデルチェンジしてブレザーになるのだが、あるお子さんが「セーラー服が良かった」と言っていて、理由を聞いたら、「高校に行けばブレザーが着られるから」とのことだった。おしゃれというか、家では持っていない洋服をちょっと着てみたいというような、そういう部分もあるのだなということを感じた。

(奥家委員長)

- ・ 今後の議論を進めていくにあたって、これから制服を着ようとする小学生のお子さんの思いというのは、非常に面白い視点があるなと思う。中学生という将来に対して夢を描いている子供たちの憧れやキラキラした様子というものを、中学校へ入った時に現実を感じて幻滅してしまうというような世界をできるだけなくしていきたい。そのために制服として何ができるのかを、この検討委員会の中で考えていくことは、非常に意義があるのではないか。
- ・ さきほど鈴木げんさんからご指摘いただいたとおり、トランスジェンダーのお子さんたちはその夢すら描きづらい状況にあるということからすると、そのお子さん方も含めてみんなが中学校生活の夢を、制服を通して描けるような、そういうあり方というものを見据えていく必要があると感じている。

(内山指導課長)

- ・ 今のお話の中にも出てきていたが、浜松は市域が広く、社会の変化も激しくなっている中で、やはり校則の面でも、その意義を適切に説明できないようなものではないかということで、学校の教育目的に照らして適切な内容は何なのか、また変更する必要はないのか、本当に必要なものは何なのか、絶えず見直しを行うというところを学校の方に呼びかけしてきた。
- ・ 学校の取組について、事例をご紹介します。これは小中学校全部だが、まずは各学級で規則の変更や見直しについて話し合いを行った。生徒会活動を使って、生徒総会なども開きながら、自分たちの校則を自分たちで考えるという機会を持った。PTA の会議でもそれを出して、皆さんからの意見を伺った。さらに、学校運営協議会の議題に上げて、子供たちの思いを共有して、みんなで考えていこうという風土を作った。
- ・ 9 月末までには、全ての小中学校のホームページで校則を公開しているところである。浜松には多くのいろいろなお子さんがいて、誰一人取り残すことなく、みんなの思いを大事にするというところから、まず制服を見直してみたいということ、今の皆さんの話を聞いて深く思った。
- ・ 今回のアンケートは大変回答率が高い、精度が高いものだと思っているが、16 ページにあるように、「あった方がいい」「どちらかといえばあった方がいい」という数字を見ると、制服はあった方がよいらと捉えるが、そこにまだ「わからない」という子がいて、なくてもよいかもかもしれないという子がいるということも、私たちは忘れないようにしなくてはならない。
- ・ 学校の調査で、導入検討しない理由が「生徒からの要望・提案がない」としているが、それを聞こうとしていたのか、聞く機会を持っていたのか。少し校則と絡むところもあったのでご紹介したが、そういう視点をこれからも大切にしていきたい。

(奥家委員長)

- ・ 最後のところは、また後ほど夏目さんからもお話があるのではと思うが、『こども基本法』に自己決定権の実現というところが謳われている中で、学校は誰のためにあるのかという話になった時に、子供たちの意見がきちんと反映されていくというところを、学校としてどのように実現していかなければいけないか。そうした大きな課題にも取り組んでいく必要があるのではないか。教育委員会でもそうした視点、課題の認識は少なくとも持っていて、いくつかの学校においては、それに基づいて取組を始めているというところかと思う。

(影山教育支援課長)

- ・ 小学生と保護者の方々の70%近くが、「あったほうがいい」「どちらかといえばあったほうがいい」ということで、当事者の中学生の皆さんが半々だということも含めて、もう少しないほうがよいに大きく振れると思っていたので、アンケートをとった意味が大きいのではないかと。
- ・ 6ページの保護者クロス集計で、制服がある小学校の保護者のほうが、ない保護者よりも制服あるほうが経済的だという印象を持っているということ、中学生のアンケートからは見えてこない部分がこの小学生のアンケートのところでいくつかあるのではないかと。先ほど飯塚教授がおっしゃった、私服でないものの必要性のニュアンスが、経済面の部分でこのように現れてくるのだなと感じた。
- ・ 5ページの中学生クロス集計で、「毎日着る服に悩まなくていい」が2番目に多い回答だが、終日制服を着用している学校のお子さん、登下校に着用しているお子さんで2割の差があり、その傾向は6ページの保護者クロス集計でも出ているということ、こういう差が出てくるところが、制服、校内服、体操服という機能の部分で、どちらの形で整理していくかというときの一つの参考になるのではないかと読み取った。今後の議論の参考となるアンケート結果ではないかと思う。

(奥家委員長)

- ・ 本市の場合、制服をどうするかについては、各学校が生徒、保護者の方々と交えて議論していくという形を基本的に取っている。制服のあり方検討委員会を今年の夏に立ち上げて、こうした検討をスタートさせているが、実は各学校単位で見ると、学校の内部でそのような課題認識が出てきて、新しい制服に変わっている学校もあれば、今検討をしている学校もあるということである。
- ・ そうした取組についても基本的に尊重していく必要がある中で、検討委員会としてどういう方向性、結論に収束させていくのかということになってくる。一定のスタンダード、一定のルールを決めて学校側にそれを押し付けるという形ではなく、学校単位で決めていく動きの中に、我々が一緒になって方向を決めていくような何かを示せる、そのような議論ができるとよいと思っている。
- ・ 制服の廃止、言ってみれば登下校時や学校で生活する際の服装の自由化、制服の有り無しについて、個人的な見解、現状認識にはなるが、少し申し上げたいと思う。制服にまつわる各学校の取り扱いというのは、いろんな地域性や学校の歩んできた歴史というようなものも色濃く反映している部分があり、まさにそれは丹野教授がおっしゃっていただいたような、その地域なり学校なりのアイデンティティをどうするかということにかなり密接に結びついている。それが現状の中学校の制服だと思っている、その部分については、やはり一定程度きちんと尊重して取り扱っていくということが基本的なスタンスではないかと考えている。
- ・ 少し話は変わるが、指導課長からも話があったように、校則の改正は制服をどうするかという話と性格的に似ているような部分があるが、校則については、改正の経験値が学校でそれなりに蓄積がされている。例えば、校則で靴下は白という形になっていて、その色を自由化してはどうかということに取り組んだ学校があった。白の靴下という校則を廃止して色を自由化したところ、一旦は好きな色、今日履きたい靴下の色というのが様々に出てきて百花繚乱のような状況になったそうだが、時間が経過するにつれて、生徒の間、それから保護者の間で自然発生

的に TPO を考えるようになってきた。別に何か議論を改めてしたということではなくて、実態を見ていく中で TPO にふさわしいと思われる靴下の色に、緩やかではあるがコンセンサスが図られるようになった。

- ・そこに落ち着くまでには結構な時間がかかっていて、生徒間や保護者間、学校との関係の中で、試行錯誤、紆余曲折みたいなものが個人レベル、学校や学級レベルにおいてもあったはずであり、そうした繰り返しの中から緩やかに大局的に意見がまとまって行って、それをみんなで維持していくという、極めて健全で民主的な知恵のようなものが、その学校では出現したということである。
- ・私としては、制服についてもぜひ同様の経緯をたどっていくと面白いのではないかと考えている。そうした思いはあるが、制服に関してはこの検討委員会が立ち上がったことに大きな意義があるのではないかと考えている。
- ・明日から制服を廃止することにして、それぞれの学校でどう流れていくか大局的なところで教育委員会は眺めていけばよいということもなくはないが、それでは収集もつかなくなり、長い時間がかかるので、その知恵を実地の中から生み出していくのではなく、最終的には各学校で制服のあり方についてどうコンセンサスを図っていくかという、そのための材料というか考え方みたいなものを、この検討委員会の熟議によって何か示せるものがあるのではないか。それがこの検討委員会の意義ではないかと考えている。
- ・単に制服を存続する、廃止すべきという二極論な議論ではなくて、制服を廃止したとしてもどうするかという議論は残るため、学校単位でのコンセンサスを得ていくための材料、ジェンダーの視点はどう取り組んだらよいのか、不登校のお子さんたちにとっての制服とはなんなのか。それから、学校に通っている多くの生徒にとってのよりよい制服、小学校の時に描いた夢を、制服を通して実現できるような、そんな制服をどうするかということを考えるための材料みたいなもの、その議論をしていきたいと思っている。
- ・今日たくさんご意見をいただいて、論点になる部分がたくさん出てきたのではないかとと思うが、検討委員会の方向性としてそのような形で進めていくということではいかがか。

(ミライ制服すすめ団 夏目団長)

- ・一つは、生徒もしくは先生、生徒指導の先生が、どれだけこの検討委員会の情報を参考にされるかによると思う。この検討委員会の議事録が学校で配られる、学校・学級に一つ置いてあるなど、生徒が検討委員会の議論を見ることができて、生徒指導の先生にもそれを見るように教育委員会から伝える、そういうシステムがあるならば有効かもしれない。
- ・もう一つ、各学校で進めることは子供たちが自分で変えていくという体験のためにとってもよいと思うが、一方でミライ制服すすめ団としては統一制服を要望として出していて、同じようにこのアンケートでもかなりの希望が保護者の方から出ている。そういった件に関しては、どうしても各学校では対応しきれない部分だと思うので、そこの扱いをどうするかは議論していかないといけないと思う。

(奥家委員長)

- ・統一制服の話は、今後おそらく出てくると思う。他の中学校の制服を着てはいけないことはないと思うが、1人だけ他の学校の制服を着るということは、おそらく環境的にも相当ハードで

あり、統一制服であれば違う学校でも対応できるので、一つの大きな論点として提案していただいた意味があると思う。

(浜松トランスジェンダー研究会 鈴木代表)

- ・ 子供たちには、君たちの着るものを大人がこうやって集まって話をしているその中身というの
は見えにくいので、委員長が言われたことはすごくよいと思う。ためしに私服の日を作り、自
身で考えた服装で登校してよいとしてみたらどうだろうか。
- ・ 制服での登校を自分で選択する、ジャージでの登校を選択する、ジーンズでの登校を選択する。
今まで当たり前で制服で登校していたものが、制服を着ることが自分の選択なのだということ
をはっきり自覚できるようにする。自分の着る服を自分で選ぶという当たり前の権利が自分の
ものだとすることを意識せざるを得ない状況を作ってみるとするのは、子供たちが自身の権利
を知る上で、とてもよいと思う。

(浜松男女共同参画推進協会 道喜理事長)

- ・ 私服の日の意見は、アンケートの中にもかなり出ていた。それから、検討委員会の検討の内容
を広報するという件は、掛川市がイラストの入ったわかりやすい広報紙を作成していて、統一
制服になるまで毎回ホームページで出していた。すぐ近くの市でこういうことをやっているの
で、よいところは真似すればよいと思う。
- ・ 今回のアンケート結果の資料も、会議ではこの形でよいと思うが、多分学生が見るには読み解
くのが大変なので、それも含めてお伝えするのはよいことだと思う。
- ・ もう一つ、制服の価格のことがあったと思うが、経済的に困難な方に対する就学援助の制度に
ついて、来年度の入学者にどれくらい知られているのかというところは、事前準備をする中で
少し思ったところである。制服やいろんな用具を買うときに足りないという人は、そういうも
のも上手く使われるとよいのではないかと思う。

(奥家委員長)

- ・ 教育委員会の中だけで決めているということではなくて、会議自体もオープンにしているとい
うのはまさにそういうことであり、より多くの人たち、特に学校通っている子供たち、そこに
関わる方々に対して情報をしっかり伝えやすい形で伝えていくということは、やっていく必要
があると思う。

(影山教育支援課長)

- ・ 就学援助は全国的な制度であり、新入学の中学生の場合では、63,000円という国の単価で支払
いをしている。周知としては、つい先日、新入学だけではなく、全学年の保護者の方に一斉配
信ができるシステムからお知らせしたので、必要な皆さんには制度の情報が届いているもの
と思う。

(ミライ制服すすめ団 夏目団長)

- ・ まだ春の時点でグループ割にすると安い、早割にすると安いというような制服の販売店からの
宣伝があるときいているが、アンケートの中で、小学校6年生の親から、中学校の制服に何が

必要かわからない、学校からの案内がないという意見が複数あった。何が必要か知らされる前に販売店に行き、言われるがままに買わざるを得ない状況がある。そういった販売情報が集約されている場所が欲しいという意見もあった。

(山本教育総務課長)

- ・ 今日いただいたご意見などを伺っていると、やはりこの場では制服があるべきかないべきかという二極化ではなくて、それも含めてどんなことを検討していくか。また検討する内容によって全体で決めていった方がよいもの、個別で地域的に決めていくべきものなどを一つ一つ整理をして発信していくというやり方はどうかと思った。

(東京都立大学 丹野教授)

- ・ 皆さんの意見聞いていて思ったのは、どちらかというとは制服を決めるというよりは、標準服のあり方を決めていて、要するに標準からずれたものでも構わないという発想がやはりどこかにあると思う。
- ・ 制服というような、みんなが同じように着なければいけないものを考える場所ではなくて、標準的なもの考える場所というような感じでまとめていく。多分それぞれ学校によって事情が違うと思うので、それぞれの学校に合わせてどの範囲でその標準的なものを決めるのかということに繋がっていくのではないかという気がした。

(浜松トランスジェンダー研究会 鈴木代表)

- ・ インターネットや本などを読んでみると標準服と制服という二つの言葉が出てくるが、その違いについて説明していただけるか。

(東京都立大学 丹野教授)

- ・ 制服は、制度的に決められているもので、それを必ず着なければいけない。標準服に相当するものは、それに似たようなものだったら着ていってよい。制服はメーカーが決められているが、決められたメーカーの決められたパターンのもしか着られないというのではなくて、それに類するものであればよいという形にする。

(浜松トランスジェンダー研究会 鈴木代表)

- ・ それは、必ずしも指定されたものを着なくてもよいということか。例えば、白いシャツが標準服であった場合、ユニクロの白いシャツでもよいし、ハイブランドの白いシャツでもよいが、赤いシャツは駄目ということか。

(東京都立大学 丹野教授)

- ・ 標準服に相当するものを着てくることが中心であるが、そこを外れていてもよい。私はそういう認識である。

(静岡県立大学 犬塚教授)

- ・ 委員長のおっしゃる方向性で基本的によいと思う。制服を絶対固定化、全面廃止という両極端

ではなくて、現実にはその中のどこかに落としどころを探っていくというのが一番よいし、さらに言うと個々の学校ごとにいろんな判断があってもよい。ただ完全に自由化してしまうと統一されたものがないので、考えようがなくていろんな混乱も起きるところで、ある程度の方向性が示せるというところが、この検討委員会の役割なのではないか。そのためには、再三出ているように、やはり情報公開も非常に大事であるし、そこはきちんと担保していく必要もあると思う。

- ・ 統一した制服というのは、確かにコスト面を考えると全市で同じデザインにしてしまうというのは一つありだと思うが、一方で多様性を尊重するという観点から、そのデザインもまた多様化していく方向での統一、統一性と多様性を両立させるというところが大事である。
- ・ やはり学校はアイデンティティの一つの源にはなっていることは間違いないのではないかと。浜松市立中学校の生徒がみんな同じ制服を着るとい形になってしまうと、子供たちがどこに自分の学校に対するアイデンティティを求めていくのかわからないという問題が出てくるかもしれない。統一された制服がもし仮に方向性として決まった場合でも、そこに多様性や個々の学校のアイデンティティ、自分の母校とはこうだったという思い出を持って、卒業してからも振り返れるというところも必要だと思う。
- ・ 例えば、基本的なデザインは全部統一してコストを下げるが、学校のシンボルである校章を制服に入れる、バッチで着けるなど、いろんな形でそういう個性も出せる。必ずしも統一性と多様性は両立できないものではないので、そのあたりのバランスをどうとっていくかという議論が一番大事だと思う。

(奥家委員長)

- ・ たくさんの視点からの貴重なご意見いただいた。これを基に事務局の方で検討の方向性、論点の柱立てをし、第3回ではその柱立てについて事務局のたたき台のようなものをお示しさせていただく。またそれについて個別にご意見をいただきながら、議論を進めていきたい。

4 その他

(事務局)

- ・ 事務局で実施した制服に関するアンケート調査以外に、夏目さん、鈴木さんの方で制服に対する意見や声を集めてきていただいた。お配りした資料についてご説明いただく。

(浜松トランスジェンダー研究会 鈴木代表)

- ・ トランスジェンダーの子供たちの声は、全体のアンケートの中にほとんど載っていない。それは関係性が構築できていないと、子供たちは安心して話せないし話さないからである。
- ・ 2ページ目に「トランスジェンダーの子ども達の声まとめ」ということで、今まで研究会に相談があった中から公開の許可をいただいた事例と保護者の声を載せている。その後の「X ジェンダー高校生 M さん事例」というのは、バイナリーな社会、性別は男女二つにわかれているのが当たり前と思われている社会の中で、男女どちらでもないとか男女どちらでもあるという、X ジェンダーの子供の事例である。当事者の高校生が自分の経験を丁寧に書き取ったものを送ってくれた。公開の許可もいただいている。ぜひ読んでいただきたい。また、感覚過敏を持つ子供

のお母さんから、ぜひみんなに知ってほしいということで声をいただいた。

- ・最後に「制服選択制子どもたちの声を聞く」というプリントを入れさせていただいた。これは「ネットワーク」という県の男女共同参画の冊子の取材を受けた、高校生3人の中学のときの制服の話である。制服がアイデンティティや子供の生活全般に影響しているということがとてもよくわかる事例である。
- ・論点の整理をすると、現状の制服のルールは戸籍の性別に紐づいていて、全ての子供たちにそのルールが強制されているということがわかった。この強制が、トランスジェンダーの子供たちにとって非常に耐えがたいことであるということもわかった。
- ・性自認とは何なのかということだが、「自分の性別を自分でどのように認識しているかを示す概念のこと」と、浜松市の『多様な性への理解を深め行動するための職員ハンドブック』にある。今はこの認識に加えて「ある人が深く感じている、内的かつ個人的な性別についての経験」ということがとても重要なキーワードになってきている。
- ・なぜ「経験」が重要なキーワードかということ、性自認はその子供の単なる認識だけではなくその子供が実際に体験をしていたり経験をしていたりする生活の中身の話だということである。毎日毎日、自分が認識し経験するジェンダーとは異なる制服を強制されることが、どれだけ非人道的でつらいことなのかということ、この子供たちの言葉から読み取っていただければと思う。
- ・中学校へのアンケート調査の問5-3「制服を着たくない（着ることができない）生徒への対応」の中で、校内着・体操服を許可、制服を選択できる旨を説明、他の服装を許可と書いてあるが、戸籍に紐づいた男女二元論が前提の学校の中で苦しいと言っている一部の子供だけを取り上げて、特別に許可するという発想。これが決定的に駄目なことだと感じる。
- ・一部の子供への特別な許可ではなくて、全ての子供の性自認が尊重され自分の着る服を自分で選択できること。これらが当たり前になることは、全ての子供の安心安全につながる重要なことだと思っている。

（奥家委員長）

- ・なかなか集めようと思っても集められないような声を集めていただき、非常に貴重な資料になると思う。特にこうしたトランスジェンダーの問題などは、経済的な困窮と比較して見えづらいようなところがあり、行政とするとそこまで見えてないものにリーチはできないということがある。制服のあり方の検討の中で、そうした面まで光を当てていただいて議論をしていくということは、非常に意義があると思っている。

（ミライ制服すすめ団 夏目団長）

- ・今回、アンケート全体を通して読んだ学年ごとの印象や、重要な意見、マイノリティの声などをミライ制服すすめ団としてまとめて、資料に論点を整理した。
- ・お配りした資料の2枚目『学年ごとメモ』を見ていただきたい。まず小学校4年生で「強制するのは古い」とか「多様性の時代なので、女の子がズボン着てもいいし制服がなくてもいい」と考える児童が出てくるというのが、とてもびっくりした。授業でも扱っているのかなというふうに思った。
- ・小学校5年生になると、「女子でも男子の服を着てもいい」と、だんだん視野が広がってきて

いて、小4に比べてズボンを履きたい女子が多くなって来る。これはどういうことかという、おそらく小学校4年生ぐらいから月経が始まって足が太くなって来るので、それでズボンを履きたいという子が多くなって来るのではないかと思うが、やはり自由に自分で選びたいという意見が少なくない。また、小学校5年生で初めて、「いじめられないために制服があるべき」という意見が出てきた。少数派の声として、「嗅覚過敏で匂いが気になる」とかアトピーだという児童も出てきている。なお、この資料には少数意見を全て転載しているの、参考にしていただけだと思う。

- ・ 小学校6年生では、ズボンを選びたいという女子がとて多くなり、また、「制服はかわいい、着たい」という児童も依然として多い。一方で、「男女指定ではなく組み合わせが選べる制服がいい」とかいう自由記述がとて多くなって来る。また、「ジェンダーレスな時代なのでズボンやスカートを履いてもいいと思う」というような、男女の差についての意見が多くなって来た。重要な意見として、「子供には選ぶ権利がないのだろうか」という意見もあった。
- ・ 中学校1年生になると、先ほども申し上げたが、「暑い・重い・着替えるのが面倒・動きにくい」という声が出てくる。「個性を尊重してほしい」「個性や人権の観点から組み合わせを選びたい」という意見が、小学生に比べてかなり多くなって来た。また、ジェンダーについての問題意識を持っている生徒が多い印象で、女子でもズボンを履きたいという意見は依然多い。そして、「そもそも制服は何で必要なのか」という意見が、小学生よりも多い。「子供たちの個性を無くしたいなら制服はあってもいいんじゃないか」という辛辣な意見もあった。
- ・ 中学校2年生も「暑い・重い・着替えるのが面倒」という意見がとて多いが、ジェンダーや「時代錯誤である」という意見は1年生よりもかなり多く、「個性が尊重されていない」という意見も1年生に引き続き多い。ただ、「なぜ制服を着るのか」という意見は、慣れてきたのかほとんど見当たらなくなくなる。そして、「行事のときだけ着て、あとは体操服や私服がいい」という意見が多い。また、制服がよいという生徒と私服がよいという生徒は、自由記述の間では双方同じぐらいという印象であった。ここで、このアンケートで本当に1人だけ、制服の違いで悩んでいて、自分を否定されているみたいで生きづらいと書き込んでいた。
- ・ 中学3年生は、個性に対する主張が陰を潜める。これには驚いた。小学校6年生からずっと個性、個性と言ってきたのに、中学校3年生になると個性に対する主張がなくなる。そして、「大事な行事のときだけ着る」「もっとかわいいのがいい」とか「ださい」という意見が多くなる。「荷物になる」「しわになる」など、しまうときの弊害を語る生徒が激減するが、これは部活がなくなるせいかもしれない。「私服を着たい」という生徒が中学3年生になるととて多くなる。ジェンダーに関する問題意識は、中学2年生と変わらないぐらいたくさんある。
- ・ 全体の印象としては、制服があるとどここの中学かわかるということはよいという意見と、どここの中学がわかることで心配だという意見の両方あった。また、制服を着たくないという意見と私服がよいという意見も一定数あるが、制服を着たいという意見もたくさんあった。
- ・ 今回のアンケートで目からウロコだったのが、制服のスカートと自転車の相性の問題である。全員が自転車で通う地域のお子さんや保護者の方からは、入学して1週間で転んでボロボロになって買い替えたとか、スカートを巻き込んでしまうとか、そういった危険さの問題や、ほぼみんな同じ自転車を買うため、購入費が制服も合わせて25万円になったという意見もあった。制服だけではなくて、入学費用ということで自転車も問題になっていると思った。
- ・ 保護者の意見では、やはり皆さんおっしゃるように高額なのに少ししか使っていないというの

が主で、量販店で購入したいという要望はかなり多かった。あとは中学校 1 年生の保護者で、「制服自体がみんなと同じでないと怖いと感じるきっかけになってしまったのではないか」、また「個性のない人間がいいという教育をしているように感じる」という意見があった。

- ・ 不登校の方の意見が今回のアンケートではあまり出てこなかったもので、こちらで取ったものを別に添付している。困っているのは小学校 6 年生で、「今不登校でこの後行くかどうかもわからないのに買うのがいいものか」「リユースやレンタルがあればいいけど、ないからとりあえず買ったが一度しか着ていない」「一度しか着ていないのにどこにもリユースする先がない」という方がいた。そういった、気軽に制服を用意できる環境がないということが大きい。また、感覚過敏の生徒さんで、制服が不登校のきっかけになっているという方もアンケートの中に散見された。制服を着たくないということを不登校の理由にされてしまったという保護者もいた。
- ・ 私としては、アンケートはとにかく多様だった、という印象である。皆さんこれまで自分では声を上げてこられなかったが、上げてみたらこれだけ多様だったといったときに、一番大事なものは、全ての生徒が一人残らず認められている、尊重されていると感じることだと思う。
- ・ そういう意味で、今年施行された『こども基本法』や去年改訂された『改訂版生徒指導提要』に、「個性の発見」、「自己実現を支えること」、「基本的な人権が守られ」ること、「意見が言え」ること、「意見が尊重され」ることが記載されていることは重要だ。さらに、今月 22 日に閣議決定された『こども大綱』でも、「個性や多様性が尊重され、尊厳が重んぜられ」、「自己肯定感を持つ」こととされている。ここが大事だと思ったのは、「固定観念や価値観を押し付けられず、自由に多様な選択ができ、自分の可能性を広げることができる」ことと書かれているところであり、差別されてはならないことが書いてある。
- ・ 論点としては、こういった多様な子供たちの意見を聞いて、一人残らず尊重してあげられるような場ができていくかということが、一番大事だと思った。

(奥家委員長)

- ・ 子供たちの生の声をまとめていただいたことは非常に意味がある。大人が寄り集まってどういふことを検討したらよいかということを実際に意見、議論しているわけだが、既にその論点を子供たちが持っているというところが非常に驚きというか、当然なのかもしれないが、それが非常によくわかるメモだと思う。
- ・ だからこそ、最後に言っていた『こども基本法』や、つい先般閣議決定された『こども大綱』の中に書かれているような、まさに子供たちが何をどう考えているのかというところを中心に置くことの重要性というのは、大体大人と同じことを考えていて、考えていることはほぼ正鵠を得ているという、そこを改めて認識をしながら議論を進めていくことが重要だと思った。